

平成29年8月2日

## 日本英語検定協会第30回「英検」研究助成研究部門 入選！

本学の大学院生が、第30回「英検」研究助成の研究部門に入選し、研究助成金が贈呈され、“EIKEN Bulletin”第30号に論文が掲載されることが決まりました。

この研究助成制度は英語能力テスト及び英語教育に関する優秀な企画に対して助成金を交付するもので、今回入選した「研究部門」は英語教育学研究者の登竜門の1つとされています。本研究の成果により、英語教育改革や大学入試改革に翻弄される教育現場に示唆を与えることが期待されます。

たかきしゅういち

高木修一人間発達文化学類准教授 指導の人間発達文化研究科 地域文化創造

専攻修士課程1年久保田恵佑くぼ たけいすけが、公益財団法人日本英語検定協会第30回（2017年）「英検」研究助成研究部門に入選し、2017（平成28）年7月22日、アルカディア市ヶ谷（東京都）において入選証書の贈呈を受けました。

今回入選したのは「RTW タスクにおける EBB ループリックの有用性-外部英語試験への架け橋-」と題した研究です。本研究の背景には、大学入試改革があります。入試改革の中で、英語4技能の測定・評価が焦点の1つになっています。とりわけ、技能統合的なテストの指導と評価への対応が教育現場には求められており、「評価基準」という評価の観点からの本研究は、日本の多様な教育現場に対して、外部民間試験へとつながる1つの示唆を与えるものと期待されます。

本研究には28万円の助成金が授与され、2018年に日本英語検定協会から刊行予定の英検研究助成報告書“EIKEN Bulletin”第30号において、研究成果の詳細が掲載されます。

（お問い合わせ先）

人間発達文化学類准教授 高木修一

電話：024-548-8143

メール：takaki@educ.fukushima-u.ac.jp